京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称
環境史研究の可能性

2. 主宰責任者氏名
藤原辰史（京都大学准教授）、Harald Fuess（ハイデルベルク大学教授）

3. 開催日時等およびプログラム（講演者名または報告者名を明記してください）
①日時：2020 年 10 月 23 日　10:00～12:00
場所：京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
演題等：明治期日本のコレラ
講演者または報告者：Harald Fuess（ハイデルベルク大学教授）

4. 概要（400 字程度）
明治期日本のコレラエピデミックを、外交、科学、アジア史の文脈から考える。特に、16万人の日本人が感染したと言われるヒスペリア号事件について、さまざまな資料を利用しながら、それをめぐる日本とドイツの関係、東アジアの情勢、公衆衛生の状況などについて説明した。今日のパンデミックを歴史的にどう位置付けるかに関する重要な論点もあり、講演後、感染症に関心をもつ参加者で、他国・他の感染症との比較や、パンデミック研究の展望について議論した。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）
①学外
小堀聡（名古屋大学准教授）、香西豊子（佛教大学准教授）、ルッシュ・マルクス（龍谷大学研究員）、ハラルト・フース（ハイデルベルク大学教授）
学内
粂田昌宏（生命科学研究科助教）
所内
小関隆、瀬戸口明久、ティル・クナウト、直野章子、藤原辰史

6.助成金の使途等
国内からコメンテーターを呼ぼうと思っていたが、ウイルス感染を避けるために、急遽キャンセルとなった。よって使用しなかった。

7.その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）
今回の発表を中心にして、フース氏は『ZINBUN』で論文を発表する予定。さらに、コレラのみならず、日本のさまざまな感染症について資料を収集し、パンデミックの総合的研究へと繋げていきたい。

別 紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	2	5 (1)	1 ( )	1 ( )	1 ( )	0 ( )	5 (1)	1 ( )	1 ( )	1 ( )	0 ( )
国立大学	1	1 ( )	( )	1 ( )	( )	( )	1 ( )	( )	1 ( )	( )	( )
公立大学		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
私立大学	2	2 (1)	1 ( )	( )	1 ( )	( )	2 (1)	1 ( )	( )	1 ( )	( )
大学共同利用機関法人		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
独立行政法人等公的研究機関		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
民間機関		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
外国機関	1	1 ( )	1 ( )	( )	( )	( )	1 ( )	1 ( )	( )	( )	( )
その他		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
学外 計											
計	5	9 (2)	3 ( )	2 ( )	2 ( )	( )	9 (2)	3 ( )	2 ( )	2 ( )	( )

【その他の参加状況】

※本務所属が海外の研究機関である研究者
※( )内には、女性数を記載
※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。
※外国人、若手研究者(40 歳未満)、若手研究者(35 歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。
※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。
※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。
※【その他の参加状況】には「その他」区分に計上した、具体的な所属等を記載
※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください
　国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人